





第1学年 国語科 学習指導案(旭志中学校)

菊池市立旭志中学校  
教諭 井柄 光博

Ⅰ 単元構想

<p>単元名</p>	<p>7 伝え方を考える「似ている言葉」スピーチ(東京書籍p174~178)</p>		
<p>単元の目標</p>	<p>(1)○事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (1)ウ ○考えと根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア 【知識・理解】</p>	<p>【キャリア教育の視点】 </p>	
	<p>(2)○自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な文、事実と考えとの関係などに注意して、話の構成を考慮することができる。A(1)イ ○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。A(1)ウ 【思考・判断・表現】</p>	<p>【キャリア教育の視点】  </p>	
	<p>(3)言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>【キャリア教育の視点】 </p>	
<p>単元の評価規準</p>	<p>知識・技能 ①事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ ②考えと根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p>	<p>思考・判断・表現 ①「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と考えとの関係に注意して、話の構成を考えている。A(1)イ ②「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。A(1)ウ</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 話の中心を明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって、聞き手の反応をふまえたスピーチをしようとしている。</p>
	<p>単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)</p>		
<p>話の中心や事実と考えとの違いを理解し、相手意識をもって話の構成を考え、スピーチをする生徒。</p>			
<p>単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)</p>	<p>本単元で働かせる見方・考え方</p>		
<p>伝えたいことを明確にした「地域とのつながりを感じる言葉」スピーチをしよう。</p>	<p>事実と考えなどの違いを理解して、相手意識をもった「地域とのつながりを感じる言葉」スピーチを行うことを通して、言葉への自覚を高める。</p>		

指導計画と評価計画(5時間取り扱い)			
見通し・知識・技能の習得	1	2	3
	<p>○題材の目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○スピーチの例から、スピーチの具体的なイメージをもつ。</p> <p>【具体的評価規準】</p> <p>(知識・技能)</p> <p>学習の見通しをもち、興味のある語句について考えている。(タブレット、行動観察)</p>	<p>○「地域とのつながりを感じる言葉」についてこれまでの学習を振り返り、今後大切なことを考え、スピーチに必要な内容をまとめる。</p> <p>【具体的評価規準】</p> <p>(知識・技能)</p> <p>事実と考えの違いを意識しながら調べたことをまとめている。(タブレット、行動観察)</p>	<p>○「地域とのつながりを感じる言葉」について考えたことをもとに、スピーチの構成を考える。</p> <p>【具体的評価規準】</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>話の中心を明確にしながらか話の構成を考えている。(タブレット、行動観察)</p>
活用	4	5	
	<p>○スピーチの練習を通して、具体的なアドバイスをお互いに行い、自分のスピーチに生かす。</p> <p>【具体的評価規準】</p> <p>★(思考・判断・表現)</p> <p>友だちのスピーチを聞いて、言葉選びや話の構成などのアドバイスをしたり、自分のスピーチに生かしたりしている。(タブレット、行動観察)</p> <p>★(態度)</p> <p>話の中心を明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって、聞き手の反応をふまえたスピーチをしようとしている。(行動観察)</p>	<p>○これまでの学習をもとに、スピーチの発表をする。(動画で記録し、学習成果発表会などで見せる)</p> <p>【具体的評価規準】</p> <p>★(思考・判断・表現)</p> <p>友だちのスピーチを聞いて、言葉選びや話の構成などのアドバイスをしたり、自分のスピーチに生かしたりしている。(タブレット、行動観察)</p> <p>★(態度)</p> <p>話の中心を明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって聞き手の反応をふまえたスピーチをしようとしている。(行動観察)</p>	

## 2 単元(題材)における指導計画と評価計画及び系統

学習指導要領における該当箇所
<p>中学校学習指導要領第1学年</p> <p>〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」</p> <p>イ 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と考えとの関係に注意して、話の構成を考えている。</p> <p>ウ 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。</p>
教材・題材等の価値
<p>本教材では、これまでの学習を踏まえて、話の中心を明確にし、事実と考えとの関係に注意して、構成を考えて話すことを学習する。音声表現は即時的なものであり、聞き手が話を遡って内容を確認することができない。そのため、文章表現よりも事柄の順序や説明の仕方が重要になる。一方、音声表現ならではの伝わりやすさもある。聞き手の反応を見ながら、声の大きさや話す速さ、間の取り方を工夫したり、言い換えたり繰り返したりすることで聞き手に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>実生活においても同様に、自分の考えや思いを伝える場面があり、その際も話の構成を考えたり、相手に分かりやすく伝えたりすることが必要である。本教材は実生活を想定したスピーチの学習に適した教材である。</p> <p>また、スピーチの内容を「地域とのつながり」として、旭志中は1年生からファームステイや学習発表会など地域とのつながりを感じられる行事が多くある。そのため、そこから考えられる地域とのつながりを感じるキーワードを考え、そのキーワードを中心としたスピーチを行い、地域とのつながりを深めていきたい。</p>

## 本単元における系統

### 【中学校1年】

話の聞き方・質問の仕方  
・話の聞き方や質問の仕方を理解し、質問しながら話の内容を捉える

### 【中学校1年】

インタビュー  
・記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる

### 【中学校1年】

「似ている」言葉スピーチ  
・話の中心を明確にし、事実と考えとの関係に注意して、構成を考える  
・聞き手の反応を踏まえ、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する

### 【中学校1年】

グループディスカッション  
・日常生活から話題を決め、集めた材料を整理し、伝える内容を検討する  
・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる

### 【中学校2年】

プレゼンテーション—説得力のある提案をしよう  
・自分の考えを明確にして、説得力のある話の構成を考える  
・資料や機器を活用して、分かりやすく伝わるように表現を工夫する

### 【中学校3年】

条件スピーチ  
・自分の考えを明確にし、相手や目的に応じて話の内容や展開を考える  
・場の状況に応じて、自分の思いや考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する

## 生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

### ■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（単位：人）※30人中28人回答

調査内容	1 よく	2 まあ	3 あまり	4 ない
相手に分かりやすく伝える文章の工夫が分かる。	2	10	14	2
事実と考えとの違いが分かる。	5	15	7	1
調べた情報の整理の仕方が分かる。	2	12	11	3

### ■本単元の学習に関する意識の状況（単位：人）

調査内容	1 よく	2 まあ	3 あまり	4 ない
国語の学習が好きである。	3	12	11	2
国語の学習内容が分かる。	2	17	8	1
スピーチの構成を考えることができる。	1	10	13	4
聞き手を意識して、スピーチができる。	4	10	9	5

### ■「旭志中のチカラ」に関する意識調査（単位：人）※一人3つずつ選択

自主的に挑戦し続けるチカラ	1 挑戦する力（12人）	2 働きかけ力（3人）	3 やり抜く力（12人）
課題を見つけ生み出すチカラ	4 課題を発見する力（7人）	5 計画をたてる力（9人）	6 ひらめく力（8人）
人と関わりつながり合うチカラ	7 伝える力（16人）	8 聴こうとする力（10人）	9 互いを認める力（3人）
	10 周りをみる力（1人）	11 ルールを守る力（2人）	12 ストレスに対応する力（1人）

### ■考察

国語の学習については、半数以上の生徒が好意的に捉えており、学習内容についても理解を示している。しかし、学習が苦手な生徒も一定人数おり、本年度は小学校の学習内容も復習しながら授業を進めている。

話の構成について考えるにあたり、事実と考えとの違いや調べた情報の整理の仕方などは半数程度の生徒が理解しているものの、スピーチの構成や分かりやすく伝える工夫については、半数よりも少なく不十分な状況が見られる。このため、本単元を通して、指導事項を明確にした指導が必要である。

進んで話の構成を考えるためには、相手意識や目的意識をもって取り組む必要がある。単元の導入時には「何のために」「誰に」自分の考えを伝えるのかを生徒と共有することが必要である。スピーチの練習でも相互評価を取り入れ、相手に分かりやすいスピーチを考えられるように指導していきたい。

### 3 指導に当たっての留意点

【研究テーマ】

生徒が主役として輝く学校づくり

～キャリア教育の視点を生かした学習活動と特別活動等を通して～

#### 【仮説について】

- キャリア教育の視点を取り入れ、「きくちの学び」を基にした授業づくりを行うならば、生徒は学びの目的や見通しを持ち、学びを自分事とし、基礎・基本的な学力を身につけることができるであろう。
- 生徒一人ひとりのキャリア発達を促す特別活動や地域学校協働活動の取組を行うならば、社会との関わりを考えながら、取組の目的を見出し、見通しを持って計画的に物事を進めようとする力が身につくであろう。

#### 【旭志中のキャリア教育目標『旭志中のチカラ』について】



#### 【ESDとの関連】

- これまでの学習から地域とのつながりを感じられること（ファームステイ、学習発表会、旭志フェス）を振り返り、地域の良さや地域とのつながりについて考えていく。また、これまでに感じたことに加えて、これからさらにつながりを深めていくために必要な視点などもキーワードとして考え、地域とのつながりを深められるようにする。
- 話の構成を考える際には、他地域のことを調べたり、比較したりして、自分の住む地域について考える視点を増やせるようにする。
- 発表の相手を地域の方に設定することで、相手意識をもってスピーチの原稿を考えられるようにする。
- 旭志中で取り組んでいるキャリア教育の視点もESDの視点と重なるため、2つの視点を重ねながら指導する。

#### 【本学習で働かせるESDの視点】

- 相互性…旭志中の卒業生（先輩）が、農家をされていて、その農家さんたちがファームステイで生徒を受け入れ、農業や酪農等で働くことについて教えてくれていることに気づき、地域とのつながりを感じられるようにする。
- 連携性…学校行事や地域の行事を通して、地域とのつながりを持ち、地域の一員として自分にできることや伝えたいことを考え、発信できるようにする。

#### 【本学習を通して育てたいESDの資質・能力】

- コミュニケーション能力…学校行事や地域の行事を通して、地域の人との対話で思いを聞き取り、スピーチで自分の思いを発信していく力を伸ばせるようにする。
- つながりを尊重する態度…地域とのつながりの中で、学校生活や家庭生活を送っていることを考えさせ、スピーチを行うことで、つながりを大切にすることを育てていきたい。